

令和2年度事業報告

☆一般情勢

令和2年度は新型コロナウイルス（COVID-19）との共存であった。新型コロナウイルスは、2019年12月に中国武漢市で確認されて以来、全世界に感染者が拡大している。我が国においては2020年1月に初めての感染者が確認され、徐々に感染者が増加し、2020年4月7日に政府による緊急事態宣言が初めて発令され、また令和3年度に入り京都府を含む大阪府、兵庫県において4月25日から、3回目の緊急事態宣言が発令されるなど、新型コロナウイルス感染拡大の第4波に入っている。

福祉新聞において新型コロナウイルス感染症の発生施設は、2021年4月14日までに5196箇所、内訳として4月に196箇所、クラスターは65箇所発生し、1月上旬の376箇所よりは少ないものの、3月上旬の101箇所より大幅に増加している。

また、4月の感染施設の内訳は、高齢者施設82箇所、保育所こども園72箇所、障がい者施設17箇所などとなっており、本会も子ども達や職員の健康を一番に考えていきたい。

一方、最近において、大人の代わりに家事や家族の世話をしている子ども「ヤングケアラー」が注目されている。子どもを取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、子ども達の笑顔が少しでも増えるよう努力していきたいです。

ここに法人及び三施設（地域小規模児童養護施設）の努力目標の達成度について報告致します。

努力目標達成度

1 法人（本部）

- 1 児童の人権擁護に最大級の注意を払うと同時に、困難な実態を直視し、各施設の処遇の充実を図る。
 - ・各施設が課題に対して、前向きに向き合い丁寧に取り組んだ。特にコロナ禍において子どもの権利が損なわれないよう配慮した。
- 2 いろいろな行事を通して、法人後援会役員と乳児・幼児・児童・職員との交流を深める。
 - ・コロナ禍において、感染予防の観点から法人後援会役員と乳児・幼児・児童・職員との交流を目的とした行事はすべて中止した。
- 3 法人役員及び後援会、職員、児童一丸となって、平安徳義会創立130周年記念事業を実施する。
 - ・平安徳義会創立130周年記念事業として、平安徳義会創立130周年記念誌「130年のあゆみ」を発刊した。

2 養護園・ミニトクホーム・善峰ホーム・青雲塾ホーム

- 1 子どもの権利擁護の視点を重点的課題とする。
 - ・支援向上委員会を実施出来たが、コロナウイルスの影響で定例化が難しく、規模縮小を強いられた。
 - ・コロナウイルスの影響もあり、定例の第三者委員会が実施出来なかった。
 - ・継続して、子ども達の意見、要望の聴取について、より気軽に子ども達自身が出せるように意見箱を継続設置した。
- 2 職員の資質向上に務める。
 - ・令和元年同様に前施設長による、年代別、事例検討会など園内研修の充実を図った。
 - ・心理職員や家庭支援専門相談員がブロック会議等への参加を強化した。
 - ・コロナウイルス流行に伴い、外部研修への職員派遣が出来なかった。
- 3 児童養護施設での今日的課題である、地域化、小規模化及び個別化に向けた取り組みを行う。
 - ・開設している4か所の地域小規模児童養護施設「ミニトクホームさくら・もも」「善峰ホーム」「青雲塾ホーム」は順調に運営できた。
 - ・自立支援計画書の焦点化を目標にあげたが、評価欄の改善が課題としてあり、今後改善を行う。
- 4 職員の人材確保、人材育成の充実をはかる。
 - ・人材育成に関して、就任前研修等、乳児院と合同で実施出来た。
 - ・コロナウイルス流行の為、施設見学会の実施が出来なかった。

3 乳児院

乳児院改築から3年を迎え、初心に返り乳児院一丸となって新事業に取り込む。「子どもの最善の利益」を保障するため更なる施設の高機能化、多機能化及び小規模化を図るを目標に掲げ、4つの取り組みを行った。

- 1 専門的養育機能の充実
 - ・定員20名、入所児童9名（内3名が被虐待児）、延べ日数5,543日、一時保護委託児36名、延べ日数1,451日、合計延べ日数は6,994日だった。退所児童は7名、内訳として家庭引取1名、養護園移籍2名、里親委託4名だった。
 - ・支援の難しい病虚弱児や障がいを持つ児童の相談や支援の難しい保護者が増えており、施設の高機能化の課題を再確認した。また、新型コロナウイルス感染症を踏まえた入所や、一時保護の受け入れは困難を極めた。

2 小規模グループケアの充実

- ・乳児、幼児ホーム合わせて4ユニット体制を組み、担当性を重視した養育を行うことで、著しい子どもの成長発達が観られた。しかし、コロナ禍において、子どもたちの生活や行事の制限、人流の制限を行うことでの職員の葛藤や連携の課題も見られた。

3 早期家庭復帰に向けた保護者支援・里親支援の充実

- ・支援の難しい保護者に対して、児童相談所や関係機関と連携し、それぞれのケースに応じた家庭支援を行ったが、新型コロナウイルス感染予防対策の理解を求めながらの対応は困難を極めた。

4 職員の人材確保、人材育成について

- ・研修計画に基づき施設内研修に力を入れ、専門職研修、階層別研修、職員へのスーパービジョンを行った。また、外部研修についてはコロナの影響を受け、中止若しくはWEB研修となり、計画通り進まなかった。
- ・コロナの影響を受け、人材確保等に課題を残した。

4 岡崎幼稚園

1 職員体制の強化

- ・職員体制の強化を目指したが、新型コロナウイルス感染のために、クラスごと・少人数での取り組みが多く、体制的に保育士に余裕がなかった。
- ・令和3年度の職員体制の確保に苦労した。

2 保育内容の充実

- ・新型コロナウイルス感染のために、国・京都市から様々な制約を受ける中で、どう保育を展開して行けば良いのか、悩みながら取り組んだ。
- ・保育の中で3密を避ける取り組みの中で、他クラスとの交流など、制限することが多く、行事や保育に支障が出た。
- ・保育内容の充実を目指していたが、新型コロナウイルス感染のため、キャリアアップ研修や園内研修など、予定していた研修が実施出来なかった。
- ・障がい児保育の充実を目指し取り組んだが、今後の課題を含めて大阪の病院と連携するため退園となった。
- ・新型コロナウイルス感染のため、普通にしていた保育が、普通に実施出来なくなったことで、どうすれば実施出来るか？考える良い機会にもなった。それにより今までと違った取り組み方法を見つけることが出来た。

3 子育て支援の強化

- ・新型コロナウイルス感染のために、あそうぼうクラブ・ネットワーク会議・中学校、高校生による取り組みが中止となる。

- ・保護者会の取り組みも中止となったが、メール等を利用し保護者会の体制は維持することが出来た。
- ・クラス懇談会など、定期的な取り組みが出来なかったため、保護者間のコミュニケーション等に支障が出た。

4 調理室の充実

- ・新卒の管理栄養士を雇用し、調理室の体制を整えることが出来た。
- ・「食育」もコロナウイルス感染のため、クッキングなど計画通りに実施することが出来なかった。

5 環境の整備

- ・1階、2階に可動式テントを設置した。
- ・プール実施時のUVカットテントを購入した。

6 地域との連携

- ・園主催の対外行事をすべて中止した。
- ・予定していた地域団体との交流行事がほとんど中止となった。
- ・地域のデイサービス慰問の代わりに年長組が手作りの飾りをプレゼントした。